

【5月28日 情報解禁・特報】

文京学院創立者の著書を原案にした映画が2025年10月24日(金)全国公開
『富士山と、コーヒーと、しあわせの数式』(配給:ギャガ)
豆原一成(JO1)×市毛良枝 W主演作

学校法人文京学院(理事長:島田昌和)は、本学院創立者島田依史子(しまだいしこ)著『信用はデパートで売っていない 教え子とともに歩んだ女性の物語』(講談社エディトリアル)を原案にした映画が、2025 年 10 月 24 日(金)より新宿ピカデリー他で全国公開になることをお知らせします。

本映画は、本学院創立者が女性のために教育に一生を捧げ、学ぶことの楽しさの概念を伝えている著書を原案に、脚本家まなべゆきこ氏がオリジナルストーリーを書き下ろしました。祖母との日々のなかで夢を見つけていく、コーヒーにだけはこだわりがある、ちょっと頼りなくて優しい大学生の孫役を JO1(ジェイオーワン)の最年少メンバー豆原一成氏、ピュアな好奇心を解き放ち、若い頃の夢だった「学び」を楽しんで世界を広げていくチャームな祖母役に、44 年ぶりの映画主演を果たす市毛良枝氏を迎えています。

■映画『富士山と、コーヒーと、しあわせの数式』について(含 特報)

主演: 豆原一成(JO1) (『劇場版 仮面ライダーリバイス バトルファミリア』(22)、『BADBOYS -THE MOVIE-』(25)

市毛良枝 (『ラゲリより愛を込めて』(22)、『明日を綴る写真館』(24) 等)

監督: 中西健二 (『青い鳥』(08)、『花のあと』(09)、『大河への道』(22) 等)

脚本: まなべゆきこ (『おと・な・り』(09)、『オオカミ少女と黒王子』(16)、『サイレントラブ』(24) 等)

音楽: 安川午朗 (『ふしぎな岬の物語』(14)、『孤狼の血』(18)、『せかいのおきく』(23) 等)

制作プロダクション: PADMA

原案: 島田依史子『信用はデパートで売っていない 教え子とともに歩んだ女性の物語』(講談社エディトリアル刊)

原案総責任: 島田昌和

配給: ギャガ

©2025「富士山と、コーヒーと、しあわせの数式」

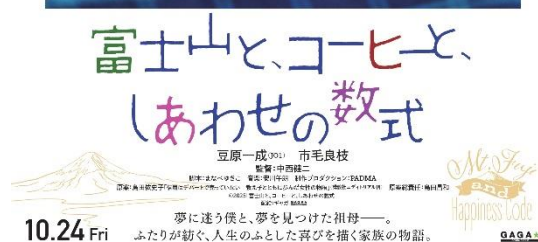
公式 HP: https://gaga.ne.jp/fujisan_and_coffee

公式 X: @MtFujiMovie1024

公式 Instagram: @MtFujiMovie1024

ダブル主演のひとりには、日本レコード大賞優秀作品賞を 2023 年、2024 年受賞、NHK 紅白歌合戦に3年連続(22~24)出場を果たしている11人組のグローバルボーイズグループ JO1(ジェイオーワン)の最年少メンバーとして人気を博す豆原一成氏。グループとしては 4 月 20 日(日)-21 日(月)には自身初の単独東京ドーム公演を開催し、計 10 万人の超満員でハイクオリティのライブを終えたと思えば、翌週 4 月 28 日(月)にはアメリカ・ロサンゼルスで行われた MLB「ロサンゼルス・ドジャース vs マイアミ・マーリンズ」のイベントに出演し、ドジャー・スタジアムでパフォーマンスするなど国内外でその勢いを加速させており、近年、個人では TBS 日曜劇場「海に眠るダイヤモンド」での好演や 5 月 30 日公開映画『BADBOYS -THE MOVIE-』で初主演を務めるなど俳優としての活躍が注目される。そんな豆原氏が、本作では祖母との日々のなかで夢を見つけていく、コーヒーにだけはこだわりがある、ちょっと頼りなくて優しい大学生の孫・拓磨をナチュラルな存在感で演じます。

そして、もうひとりの主役には、映画『ラゲリより愛を込めて』(22)、『明日を綴る写真館』(24)ほか長年多くのドラマ・映画・舞台で活躍、本作が『青葉学園物語』(81)以来、44年ぶりの映画主演となる市毛良枝氏。ピュアな好奇心を解き放ち、若い頃の夢だった



「学び」を楽しんで世界を広げていくチャーミングな祖母・文子をいきいきと演じます。

監督を務めたのは、中井貴一主演映画『大河への道』(22)などの中西健二氏。脚本は『サイレントラブ』(24)のまなべゆきこ氏。

原案は、約 100 年前、女性の活躍が困難だった時代に学校を創立(後に現在の文京学院に発展)、教育のために奔走した島田依史子の著作『信用はデパートで売っていない 教え子と共に歩んだ女性の物語』(講談社エディトリアル)。創立者島田依史子が後進に伝え続けた「学ぶことは楽しい」という概念を核に据え、彼女の生きる姿勢のエッセンスを散りばめられた本作の物語が構築されました。

祖父を亡くした祖母を気遣い同居したはずなのに、同じ学び舎で学ぶことになった祖母との日々は逆に拓磨を元気づけていく…。“夢に迷う孫”と“夢を見つけた祖母”が紡ぐ、人生のふとした喜びを描く家族の物語が誕生しました。

【STORY】

祖母・文子と暮らし始めた大学生の拓磨は、亡き祖父・偉志の書斎で大学の入学案内を見つける。それは偉志が遺した文子へのサプライズだった。一歩踏み出し、若い頃の夢だった「学び」の日々を謳歌する文子。一方、拓磨は夢に自信が持てず将来に悩む。そんな二人は、富士山が好きだった偉志の手帳に不思議な数式を見つけて…。

*特報 解禁！

突然一緒に暮らすことになった孫と祖母。同居に戸惑う孫・拓磨と、孫との生活を楽しみにしていた祖母・文子は、その上、なんと同じ大学で学ぶことに！「若いころの夢を叶えに来ました」と話すキラキラとした表情の祖母・文子を見ながら、“夢を見つける”ことに悩む拓磨…。そんな二人が見つけたのは富士山が好きだった亡き祖父が遺した“謎の数式”。それは二人にとっての一步を踏み出すきっかけとなるさらなるサプライズとなっていく…。拓磨が唯一こだわりをもつ“コーヒー”を共に楽しむ二人の表情にも注目です。

★公式 youtube アドレス:特報 <https://youtu.be/LdP29QOL0oo> *限定公開中

■原案『信用はデパートで売っていない 教え子と共に歩んだ女性の物語』について

2024 年、学校法人文京学院は創立 100 周年を迎えました。創立 100 周年を記念して、創立者島田依史子の自叙伝『信用はデパートで売っていない 教え子とともに歩んだ女性の物語』を講談社エディトリアルより発刊し、全国書店・オンラインで販売しています。本書は、1923 年の関東大震災の惨劇を目の当たりにし、翌年わずか 22 歳で文京学院の前身となる「島田裁縫伝習所」を創立し、女子教育の推進、発展に奔走した、島田依史子の人生を描いています。

戦前戦後を通じて、知識や経済力がないがゆえに、多くの苦労と不幸を負っていた女性たちの味方になろうと、その時代には理解が得難いような、女子実業教育としての商業教育、専門学校としての臨床検査、短期大学での英語教育へ果敢に挑んできました。本書では、独力で女子教育の場を切り拓いた、希代の女性教育者・島田依史子の意志と覚悟を、本人の言葉で綴っています。

現在では、文京学院大学文京幼稚園・文京学院大学ふじみ野幼稚園・文京学院大学女子中学校 高等学校・文京学院大学・文京学院大学院と、幼稚園から大学までと学ぶ場を広げ、多くの学生を輩出しています。文京学院の礎ともなる物語を是非ご覧ください。



書名 : 信用はデパートで売っていない - 教え子とともに歩んだ女性の物語 -

著者 : 島田依史子

定価 : 1,600 円(税別)

発売日 : 2024 年 3 月 11 日(月)

頁数 : 256 ページ

版元 : 講談社エディトリアル

コード: ISBN978-4-8677-134-2

<著者:島田依史子(しまだ・いしこ)>

明治 35(1902)年 2 月 16 日、東京市本郷区に生まれる。東洋家政女学校を経て、共立女子職業学校を卒業。18 歳で、狭き門の文部省中等教員検定試験に合格。結婚、出産を経験。大正 13(1924)年、22 歳のとき、東京の駒込追分町に島田裁縫伝習所(後に本郷女学院と改称)を開く。第二次大戦後の昭和 22(1947)年、文京学園理事長に就任。同 39 年、文京女子短期大学学長を兼任。同 47 年には、勲四等宝冠章を受章する。昭和 58 年 8 月 23 日、81 歳で死去。

